

## 大井町立湘光中学校

研究テーマ：「自ら主体的に取り組み、共に学び合う心豊かな生徒の育成をめざして」

～聴いて、考えて、つなげる授業づくり～

### 1、実践の目的

本校の取組として、「学びのステップ」「カンファレンス」「学習プラン」などがある。「学びのステップ」では、聴き方、話し方を身に付けさせることで、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させると共に、生徒同士の話し合い活動を充実させ、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育もうとしている。「カンファレンス」では、様々な学年の生徒と授業について話し合い、考えることで、学びを深化させ主体的に学習に取り組む態度を養うことをねらいとしている。そして、「学習プラン」を生徒に提示することで、様々な生徒の発達段階を考慮しながら、生徒の言語活動や学習の基盤をつくる活動を充実させようとしている。これらをとおして「生徒が主役」の授業をつくりあげ、生徒一人ひとりの生きる力を育むことを目的とする。

### 2、実践の内容

#### (1) 研究組織

「学習の基盤となる資質・能力」を育成する授業を提案するために、各教科を3つのグループに分類し、研究を進めた。

#### ○グループA【言語能力】

国語 音楽 英語（外国語）

#### ○グループB【情報活用能力】

数学 理科 技術・家庭

#### ○グループC【問題発見・解決能力】

社会 美術 保健体育

各グループで教科横断的な視点に立ってチームでの検討会を実施した。

#### (2) 提案授業、カンファレンスの様子

提案授業を実施する3週間前より、各グループでの検討会を行っている。3週間前には提案授業を行う教科の先生方とグループチーフの少人数で、2週間前からはグループ全体での検討を行う。検討会では、単元全体をとおして学習することで定着させたい資質・能力を育成することができるか、育成するためのねらいやしかけは適切か、などを検討し、グループ全員が提案者という意識をもって取り組んでいる。

カンファレンスは、「授業はねらいに迫れていたか」や「授業のし



かけはねらいを達成するためのものになっていたか」を検討する会である。教師や生徒が授業について本音で話し合い、今後の授業をどう良くしていくかを検討している。参加する生徒の中には、何度か経験したことで、教師と対等に考えられる生徒もでてきた。

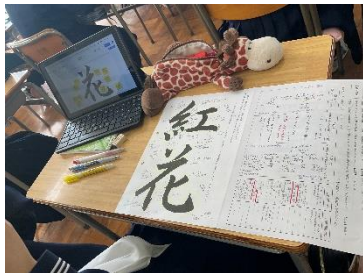


### (3) 校内研修会の様子

今年度は「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての研修を授業改善アドバイザー三浦修一先生のもと行った。3観点の評価に変わり、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法について多くの先生方からも課題があげられていた。今回は、本校だけの研修ではなく、三浦先生が関わっている学校の先生方と考えを共有する形式で行った。様々な考えを知ることで、評価についての考え方を深められたので、今後の評価に生かしていきたい。

### (4) ICT の活用

今年度、ICT の活用を一つの柱として研究を行った。提案授業を行う单元の中で、効果的な活用方法を考え、実践した。また、同じグループの先生方もその活用方法が本当に効果的かを各自の教科指導の中で検証してみた。今年度は特に、「Google Classroom」や「Jamboard」、「スプレッドシート」などの活用方法を検討した。



## 3、実践の成果

### (1) 教師や生徒の変容

教師側はこれまでと比べ、授業で ICT を効果的に活用できる場面が増えてきた。特に、自分の考えと他者の考えを比較する場面などでは、有効活用できている。

生徒側は、1年生から3年生へと学年が上がるにつれ、タイピング能力やアプリケーションツールなどの活用が確実にレベルアップしている。特に、総合的な学習の時間

では、学年が上がるにつれ発表の方法や技術が向上している。1年生ではドキュメントを活用した、A4サイズ1枚のレポートを作成し、3年生ではスライドを活用し、合計30枚ほどの完成度の



高い成果物を作りあげられるようになった。

### (2) カンファレンスの成果

教師と生徒が共に考える仕組みをつくれたことが成果である。また、このカンファレンスの後に生徒のみでカンファレンスを行っており、学習者が授業のねらいについて把握するのに有効であることが分かった。

## 4、今後の展開

### (1) 学びのステップのバージョンアップ

現在、「聴き方」「話し方」の2つを柱にステップ1から3までのレベルを設定し、学習や学校生活すべてをとおして自分がどのレベルにいるかを確認している。今後、「考え方」を加えた3つの柱で研究を進めたいと考えている。来年度1年間かけて検討し、本校の学びをさらにバージョンアップさせていきたい。

### (2) 残された課題への対応

教員側の課題は ICT を活用するための考え方の変化だと考える。ICT を活用するために単元を組み立てるのではなく、生徒の資質・能力を育成するための手助けとして ICT を使い続けていきたい。

生徒側の課題は情報モラルをどう養っていくかだと考える。様々なトラブルを予測し、それに対応できる知識やスキルを日々の授業などをとおして考えさせていきたい。